

てん菜の倍数体品種の採種に関する研究

第1報 四倍体品種の特性および採根,子実の生産力について

未沢一男,安部秀雄,山本保,村井修,多田正敏

各地で育成された四倍体品種について,暖地で直播採種した場合の開花特性,菜根収量,子実収量を知り3倍体品種の基礎資料を得るために本試験を行った。

1. 四倍体品種の生育状況

四倍体品種で発芽良好な品種は本育192号(4x),GW476(4x),GW304(4x)であり,GW602(4x),GW674(4x)が劣った。抽苔率はGW359(4)x,GW443(4x)が高く,一般に四倍体品種は抽苔率が高かった。褐斑病は導入2号に比較して,全般に弱く特にmarirbo(4x),GW304(4x)が弱い傾向が認められた。

2. 四倍体品種の菜根の収量調査

根重は一般に低かったが,導入2号より多い品種は本育192号(4x),GW674(4x)で他の品種はその差が判然としなかった。糖度はmarirbo(4x),が少々高く他の品種は導入2号と同様か低い。

3. 四倍体品種の特性

抽苔期,開花期,成熟期はほぼ同じ傾向にあり,早播きすると概して早くなり,特に抽苔,開花のおそい品種が早くなる。しかし早く抽苔,開花する品種は早播しても抽苔,開花は促進されないようであった。

四倍体品種の子実収量はGW304(4x),GW359(4x)はアール当り19~26kgの収量を上げ得ることが判明した。しかし一部の品種ではアール当り2~5kgの収量にとどまった。